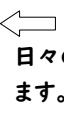


志布志市立田之浦小学校
令和7年度学校だより5月号
令和7年5月20日発行
御在所の風

【令和7年度学校の願い(キャッチフレーズ)】
楽しい学校～気付き考え方行動する～



学校ホームページ(HP)QRコード
日々の教育活動をHPで、随時紹介しています。左のコードから入り、閲覧ください。

気付き 考え 行動する～自己指導能力の育成～

校長 川邊 真人

令和7年度がスタートして、1か月余り経ちました。子供たちは、新しい学年に一つ進み、それぞれの教室で、自分の個性やもっている力を発揮するべく頑張っています。また、休み時間は、学年の枠を超えて、低学年から高学年が一緒になって、ボール遊びや鬼ごっこ、運動場の脇で日なたぼっこをしながら座談会。思い思いにのびのびと、休み時間を過ごしています。そんな子供たちの届けのない笑顔と元気な声は、私たち職員にも元気と笑いを届けてくれます。



【1・2年教室の様子】



【3・4年教室の様子】



【5・6年教室の様子】

さて、令和4年12月、文部科学省は、生徒指導に関する学校・教職員向けの基本書となる「生徒指導提要」を12年ぶりに改定し、それから2年余りが過ぎようとしています。

この基本書には、生徒指導の定義が示されています。

【生徒指導の定義】

生徒指導とは、児童生徒が、社会の中で自分らしく生きることができる存在へと、自発的・主体的に成長や発達する過程を支える教育活動である。生徒指導上の課題に対応するために、必要に応じて指導や援助を行う。

この目的を達成達成するためには、子供たち一人一人が「**自己指導能力**」を身に付けることが重要です。

自己指導能力とは、子供が深い自己理解に基づき、「何をしたいのか」「何をするべきか」、主体的に問題や課題を発見し、自己の目標を選択・設定して、この目標の達成のため、自発的、自律的、そして、他者の主体性も尊重しながら、自らの行動を決断し、行動する力を意味しています。

子供たちは、学校生活における他者との関わり合いや学び合いの経験を通して、日々、成長していきます。ときには、生活の中で、自分の思い通りにならないことや、友達とけんかをしてしまうことなど、子供たちにとって大きな課題(ときに失敗も)に直面することがあります。

そんなとき、我々大人が、子供に寄り添うことが大事です。この「寄り添う」とはどういうことなのか…。

例えば学習の成果など子供一人だけの課題であれば、その子供の思い(悩み)や考えに耳を傾けること、これが友達間の課題(トラブル)であれば、必ず双方の子供の思いや考えに耳を傾けることです。

そして、「自分はどうするべきだったのか」「相手はどう思っていたのか」など、自分や他者の思いや考えを理解し、自分のとるべき行動や他者を思いやる気持ちを育んでいく、つまり「**自己指導能力**」を身に付けていくことになります。

本年度の田之浦小学校のキャッチフレーズ(願い)は、「**気付き 考え 行動する**」。自らの行動を日々振り返りながら、日々出会う課題(ときに失敗も)の解決に向け自ら行動していく子供を育てたい。学校は、安心して学べる学校や学級づくりに努め、子供たちが自分らしさを發揮し、「何をしたいか」「何をするべきか」と主体的に考えていけるよう、ご家庭や地域の皆様とともに、田之浦小学校の子供たちを育てていきたいと考えています。